

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 6 年 5 月調査結果 - -

( 平成 1 6 年 6 月 1 日 )

調査期間：平成 1 6 年 5 月 1 9 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 3 9 9 商工会議所が 2 5 6 2 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 9 製造業 6 2 0 卸売業 2 2 9  
小売業 7 3 4 サービス業 6 0 0

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

### D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成16年5月調査結果のポイント】

### 業況DIは5カ月ぶりにマイナス幅が小幅拡大し、依然低水準で足踏み

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（26.8）よりマイナス幅が0.3ポイント拡大して27.1となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況DIは、建設、製造、サービスの3業種でマイナス幅が縮小したが、卸売、小売で拡大したため、全産業合計の業況DIもマイナス幅が拡大した。中小企業の足元の景況の停滞感は薄れてきてはいるものの、依然DI値は低水準で、業種間、企業間の格差も大きい。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、依然として消費の低迷や、公共事業の縮小、素材価格の高騰による仕入コストの上昇などの不安材料を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「売上増の事業所が出てきているが、二極化傾向がはっきりしてきている」（建築工事）、「公共事業関連は全体的に休業同然で、元請受注は望めず、下請受注や民間工事に生き残りをかけている」（一般工事）といった声や、「受注の減少と資材価格の上昇により経営悪化」（建築工事）と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「全体的に好転している」（金物類）、「雇用についても、臨時ではなく正社員として採用する事業所が増え始めている」（金属加工機械）といった声の一方、「受注は増えても安易な受注体制増強は危険なため、設備投資はせず現有機械で対処し、残業でもこなさきれない分は外注に出している」（輸送用機器）との声や、「原材料の高騰が続き、経営が苦しい」（建設・鉱山機械）と仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「一部高額商品に動きがあるが、全体としては低迷している」（農畜産水産物）、「連休前後は荷動きがあったが、それ以降は売上が減少」（各種商品）、「企画販売や催事販売などの販売努力によって売上は確保したが、見通しは相変わらず厳しい」（衣服、日用品）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「BSE、鳥インフルエンザによる精肉の売上不振からようやく脱却し、需要回復に期待が持てる」（百貨店）といった声はあるものの、「景気は上向きと言われているが、末端ではまだまだ感じられず、消費者の買い物は必要最小限に止まっているように感じられる」（百貨店）、「一部に景気好転のニュースが伝わっているが、いまだその実感はない」（商店街）との声や、「4月は天候に恵まれたが、今月は雨天が多く、売上は前年同月比マイナスの見込み」（百貨店）といった声が寄せられている。

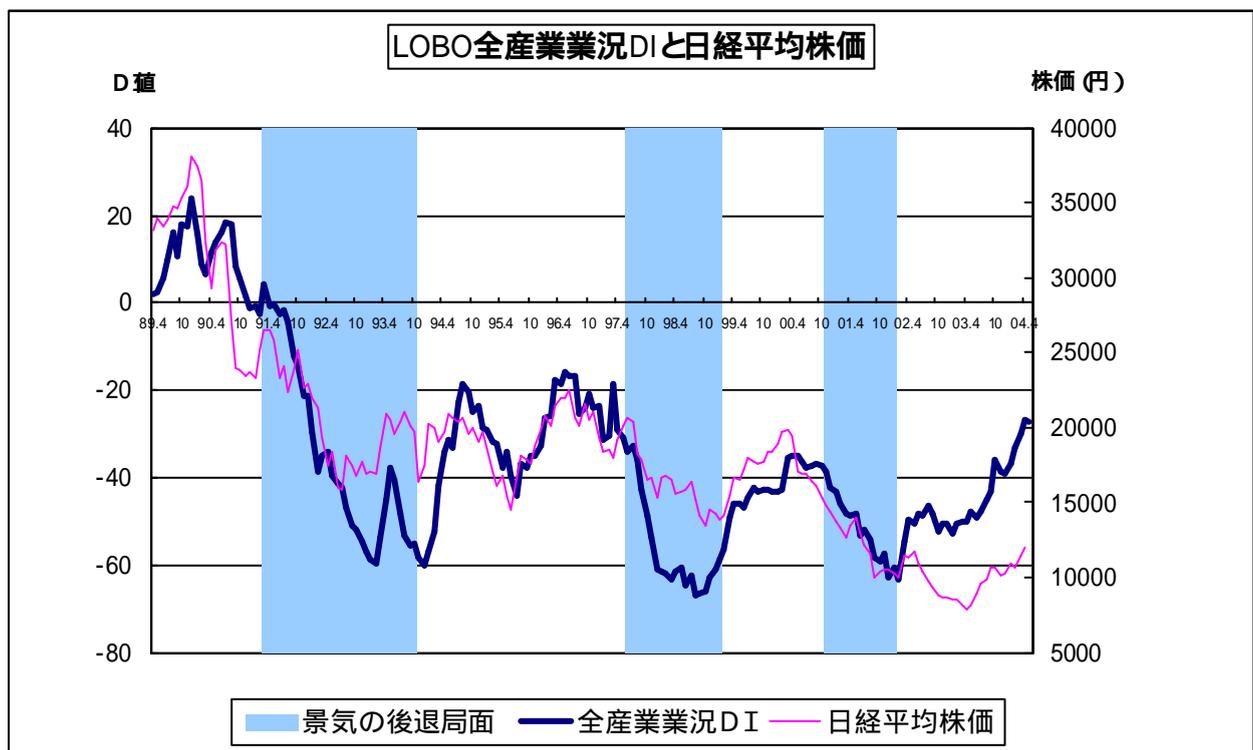
【サービス業】では、「ゴールデンウィークの人の流れが予想以上で前年を大きく上回り、景気が上向いている影響と期待している」（食堂、レストラン）、「少しずつ業況上向きの兆しが見えてきた」（理容）といった声の一方、「ゴールデンウィークに期待したが、思ったほど売上は伸びなかった」（食堂、レストラン）、「連休中はまずまずだったが、その後の業況が悪い」（旅館）との声や、「各企業とも流通コスト削減のため、輸送料金値下げの要請があり、売上減少の見込み」（運輸）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、製造、サービスの3業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は0.4ポイント縮小して 23.9となり、6カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、製造、サービスの3業種で縮小したが、卸売、小売で拡大したため、全産業合計の採算D I は0.6ポイント拡大して 26.9となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(6月~8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が 22.8と、昨年同時期の先行き見通し( 41.7)と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況は好調との声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴えるコメントが依然として寄せられており、素材価格の高騰による仕入コストの上昇に関するコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（26.8）よりマイナス幅が0.3ポイント拡大して27.1となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

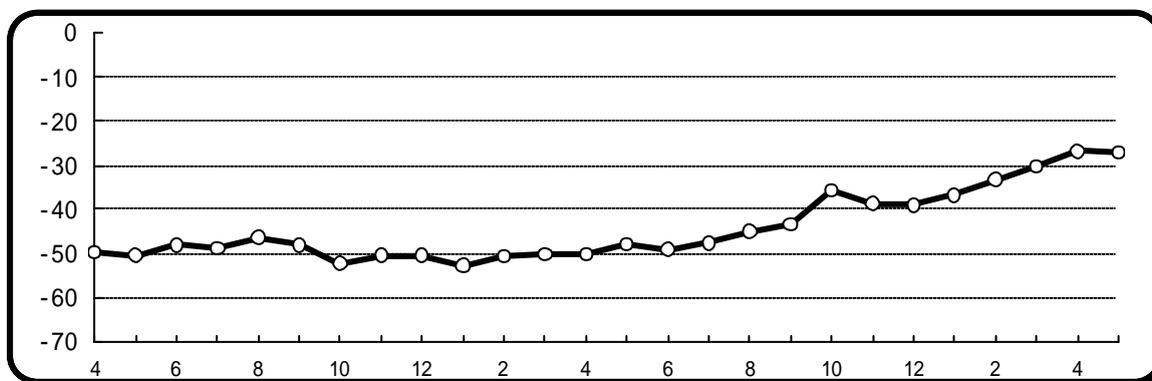
向こう3カ月（6月～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が22.8と、昨年同時期の先行き見通し（41.7）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	15年 12月	16年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	39.0	36.8	33.3	30.2	26.8	27.1	22.8 (41.7)
建設	55.6	55.3	55.5	54.8	50.4	49.1	43.6 (56.9)
製造	18.9	21.5	18.1	14.9	14.6	9.1	11.5 (40.6)
卸売	53.7	36.1	30.4	31.3	26.8	29.6	18.2 (34.5)
小売	45.6	41.6	36.0	31.7	27.7	35.3	25.7 (36.5)
サービス	35.9	35.6	32.9	27.9	23.4	21.2	19.5 (42.1)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年5月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

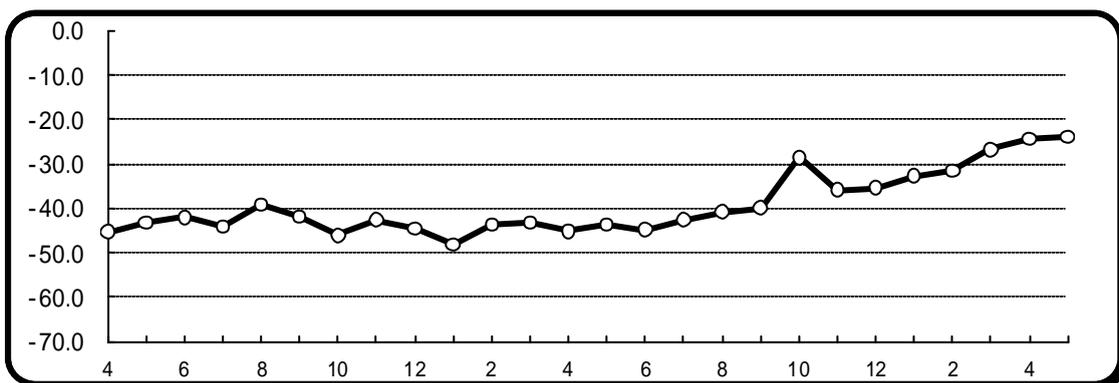
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、製造、サービスの3業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は0.4ポイント縮小して 23.9となり、6カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 20.1と、昨年同時期の先行き見通し( 35.9 )に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 12月	1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	35.3	32.7	31.5	26.7	24.3	23.9	20.1 ( 35.9)
建設	48.2	51.8	46.4	49.3	46.7	41.5	38.9 ( 50.2)
製造	13.1	14.1	11.1	12.8	3.3	0.9	9.7 ( 32.3)
卸売	43.3	34.3	36.3	24.1	26.8	27.7	19.5 ( 26.0)
小売	45.7	37.9	35.9	30.0	29.5	36.7	20.3 ( 35.6)
サービス	34.9	32.8	36.2	23.3	24.8	22.2	19.0 ( 35.0)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

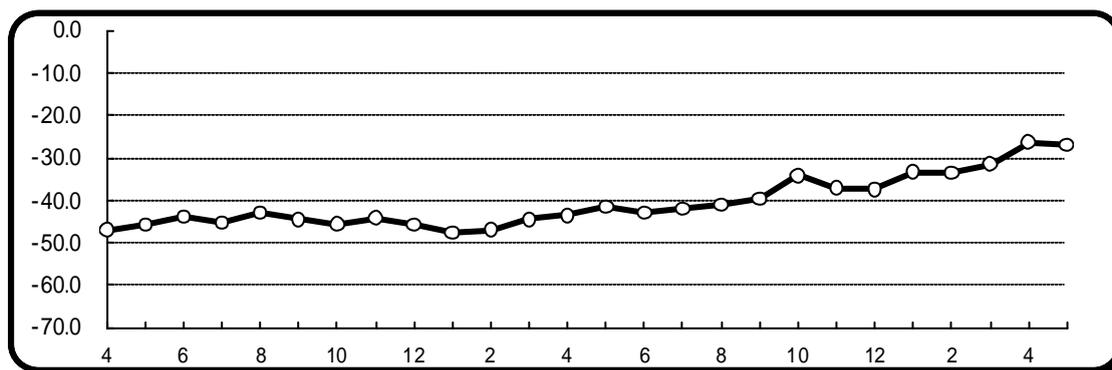
採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、製造、サービスの3業種で縮小したが、卸売、小売で拡大したため、全産業合計の採算D I は0.6ポイント拡大して26.9となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が21.8と、昨年同時期の先行き見通し(36.5)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 12月	16年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	37.4	33.3	33.6	31.4	26.3	26.9	21.8 (36.5)
建設	55.3	49.3	52.9	52.7	49.4	49.1	43.6 (56.2)
製造	27.3	23.2	24.3	24.9	17.6	15.0	16.2 (35.9)
卸売	43.9	32.5	28.6	28.3	20.4	28.9	16.4 (30.6)
小売	36.7	32.1	30.4	27.2	22.9	27.5	18.8 (27.9)
サービス	34.5	35.1	36.7	30.4	26.8	23.6	19.0 (36.9)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 12月	16年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	28.3	25.9	26.7	26.5	21.1	21.6	19.4 ( 32.0)
建設	44.2	41.0	43.0	46.6	35.4	37.9	38.4 ( 48.1)
製造	23.5	20.1	22.5	21.9	21.0	14.8	13.4 ( 33.5)
卸売	28.4	22.0	23.9	22.6	19.2	23.3	19.4 ( 27.2)
小売	25.4	26.0	21.4	21.2	14.2	17.2	14.1 ( 23.7)
サービス	25.3	22.8	26.3	24.3	19.3	22.0	19.7 ( 31.5)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造を除く4業種で悪化超感が強まり、全産業合計でも3カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 12月	16年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	4.4	7.6	9.7	10.8	13.3	14.7	12.8 ( 4.3)
建設	3.3	6.7	6.2	12.2	20.8	22.4	23.5 ( 5.0)
製造	16.2	20.0	23.9	26.2	30.3	30.0	22.6 ( 11.6)
卸売	9.3	3.6	6.6	10.3	9.6	9.4	6.9 ( 5.2)
小売	2.0	2.8	0.4	1.0	0.8	1.4	1.8 (2.6)
サービス	5.3	9.1	10.5	7.5	9.1	11.0	10.5 ( 3.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売を除く3業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも6カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	15年 12月	16年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	9.5	10.8	10.0	8.0	7.6	8.6	8.5 ( 15.0)
建設	21.5	26.6	27.5	26.8	30.8	29.9	25.2 ( 32.1)
製造	8.7	11.5	9.1	6.0	9.2	5.3	6.9 ( 18.1)
卸売	11.0	15.1	9.6	11.4	10.8	11.9	8.5 ( 11.6)
小売	5.8	5.5	4.1	2.7	0.2	3.0	5.2 ( 7.9)
サービス	6.3	4.0	6.6	2.3	1.0	3.5	2.6 ( 9.1)

$$D I = ( \text{不足の回答割合} ) - ( \text{過剰の回答割合} )$$

【前年同月比 D I】建設、製造を除く 3 業種で過剰超感が強まり、全産業合計でも 4 カ月ぶりに強まる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

## 【平成16年5月の景気キーワード】

### 回復への動き

引き続き各業種から、業況の改善と景気の先行きに期待する声が寄せられており、建設、製造からは「住宅の新築とリフォームが少し出てきており、店舗の新築工事も少し増えてきている」(下館・一般工事)、「組合員全体で前年度比売上13%増、経常利益33%増となっている」(松任・通信機械製造)、「自動車用金型、FA機器は相変わらず好調で、鋳物関係も自動車、建機関連を中心に受注量が増加」(松山・一般産業用機械製造)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからも、「IT関連業種は売上が伸びている」(下関・各種卸売)、「DVDなどデジタル家電が好調」(福島・百貨店)、「昨年よりも売上が増加」(市原・食堂、レストラン)、「近隣工場の設備投資が始まり、人の動きが活発化し、景況は上向いてきた」(清水・旅館)、「ゴールデンウィークは個人客が好調で、売上は前年同月を30%以上、上回った」(京都・旅館)と業況の改善が広がっているとの声が寄せられている。

### 景況感格差

景気の現状と先行きについて、改善の動きとの声の一方、明るい見通しを持ってないとの声も依然多く、景況感の格差が広がっている。「都市部や特定の産業で景気回復の声も聞かれるが、地方の建設業は公共事業予算の削減により、底打ち感も全くない」(浜田・一般工事)、「今後、中国からの類似商品の流入により多大な影響が予想される」(小浜・木製品製造)、「売上高は相変わらず減少傾向で、明るい兆しは見えない」(浜松・衣服、日用品卸売)、「全般的に需要が低迷しており、採算の悪化も著しい」(土浦・商店街)と引き続き厳しい状況を訴える声や、「ゴールデンウィーク前半は天候に恵まれ客数も多く好調だったが、後半は雨天が続き来店客数、売上ともに苦戦」(静岡・百貨店)、「連休後は人通りもなく売上も悪い」(佐賀・商店街)、「大型連休だったためか、街中にあまり人が出て来ず、来店客が減少」(沼田・一般飲食店)と、連休中やその後の消費は伸び悩んだとの声が寄せられている。

### 仕入コスト上昇

今月も素材関連を中心に仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。「鋼材、木材等が値上がりしたため、採算は悪化傾向」(酒田・一般工事)、「鉄関連の上昇に続き、鋳物製品も値上げで、ますます厳しい状況」(名古屋・管工事)、「原材料の高騰を売価に転嫁できず、採算が厳しい」(加賀・自動車、同附属品製造)との声や、「プラスチック原材料や段ボール等の副資材の価格も上昇し、販売価格への転嫁が進まない現状では、一層厳しくなる」(岐阜・プラスチック製品製造)、「依然として輸入原料の価格が高騰しており、製品への転嫁はなかなかできず、息の長い価格交渉が予想される」(岡山・耐火物製造)といった声のほか、食品関連でも「原料大豆の価格高騰のため、採算が悪化」(熊本・食品製造)との声が寄せられている。

## 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
16年	3月	回復への期待感	先行き不透明感	仕入コスト上昇
	4月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇
	5月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況、採算D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「業況は依然厳しいが、その悪化傾向は徐々に弱まっている」(一般工事)との声の一方、「売上増の事業所が出てきているが、二極化傾向がはっきりしてきている」(建築工事)「公共事業関連は全体的に休業同然で、元請受注は望めず、下請受注や民間工事に生き残りをかけている」(一般工事)「官工事、民間工事とも受注が激減しており、原価割れの受注競争のなかで危機的状況にある」(一般工事)といった声や、「受注の減少と資材価格の上昇により経営悪化」(建築工事)と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。</p>
製 造	<p>業況D Iは4カ月連続、売上、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「全体的に好転している」(金物類)「受注が増加してきている」(一般産業用機械)「雇用についても、臨時ではなく正社員として採用する事業所が増え始めている」(金属加工機械)といった声の一方、「良い事業所と悪い事業所に二極分化しており、受注は増えても、この好調がいつまで続くか判らず、安易な受注体制増強は危険なため、設備投資はせず現有機械で対処し、残業でもこなさきれない分は外注に出している」(輸送用機器)「中国等の海外への生産委託が増加しており、国内での生産は減少」(ゴム・プラスチック履物)との声や、「原材料の高騰が続き、経営が苦しい」(建設・鉱山機械)と仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「一部高額商品に動きがあるが、全体としては低迷している」(農畜産水産物)「連休前後は荷動きがあったが、それ以降は売上が減少」(各種商品)「入荷数量は前年同月比若干増加だが、天候不順等により消費動向が悪く、単価下落し売上減少」(農畜産水産物)「企画販売や催事販売などの販売努力によって売上は確保したが、見通しは相変わらず厳しい」(衣服、日用品)「景気に一部明るい兆しと言われているが、繊維、紙関連業種は依然厳しい」(衣服、日用品)といった声が寄せられている。</p>
小 売	<p>業況、売上、採算D Iとも5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「B S E、鳥インフルエンザによる精肉の売上不振もようやく脱却し、需要回復に期待が持てる」(百貨店)「買い替え需要の高まりか、小型普通車を中心に売れ行き好調」(自動車)といった声はあるものの、「景気は上向きと言われているが、末端ではまだまだ感じられず、消費者の買い物は必要最小限に止まっているように感じられる」(百貨店)「一部に景気好転のニュースが伝わっているが、いまだその実感はない」(商店街)との声や、「4月は天候に恵まれたが、今月は雨天が多く、売上は前年同月比マイナスの見込み」(百貨店)といった声が寄せられている。</p>
サービス	<p>業況D Iは5カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「ゴールデンウィークの人の流れが予想以上で前年を大きく上回り、景気が上向いている影響と期待している」(食堂、レストラン)「少しずつ業況上向きの兆しが見えてきた」(理容)といった声の一方、「ゴールデンウィークに期待したが、思ったほど売上は伸びなかった」(食堂、レストラン)「連休中はまずまずだったが、その後の業況が悪い」(旅館)との声や、「各企業とも流通コスト削減のため、輸送料金値下げの要請があり、売上減少の見込み」(運輸)といった声が寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東北、北陸信越、東海、近畿、四国の5ブロックでマイナス幅が縮小したが、北海道、関東、中国、九州の4ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも5カ月ぶりに拡大した。

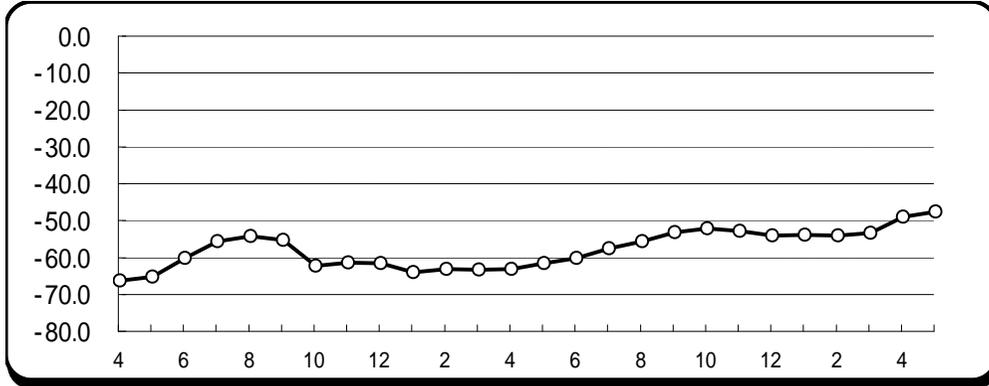
ブロック別の向こう3カ月(6月～8月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

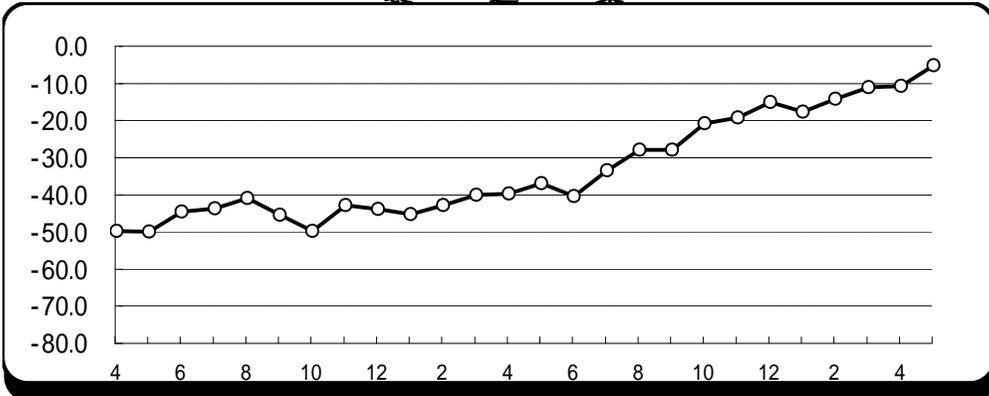
	15年 12月	16年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	39.0	36.8	33.3	30.2	26.8	27.1	22.8 ( 41.7)
北海道	33.6	29.7	30.1	36.2	23.4	28.0	26.2 ( 40.2)
東 北	48.9	43.7	36.7	33.5	36.7	33.1	26.6 ( 44.3)
北陸信越	37.0	31.8	28.3	24.6	28.5	25.3	25.8 ( 35.3)
関 東	33.9	31.1	28.5	27.5	20.6	23.8	19.6 ( 39.1)
東 海	32.1	35.6	27.7	31.6	27.1	23.0	22.4 ( 45.0)
近 畿	43.6	43.9	39.2	32.4	30.4	27.5	25.4 ( 50.9)
中 国	44.4	37.4	38.2	33.3	26.4	31.3	22.0 ( 41.7)
四 国	44.2	44.6	48.6	39.8	32.2	30.0	25.5 ( 37.7)
九 州	38.9	39.6	31.6	22.9	24.3	29.3	18.3 ( 39.2)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

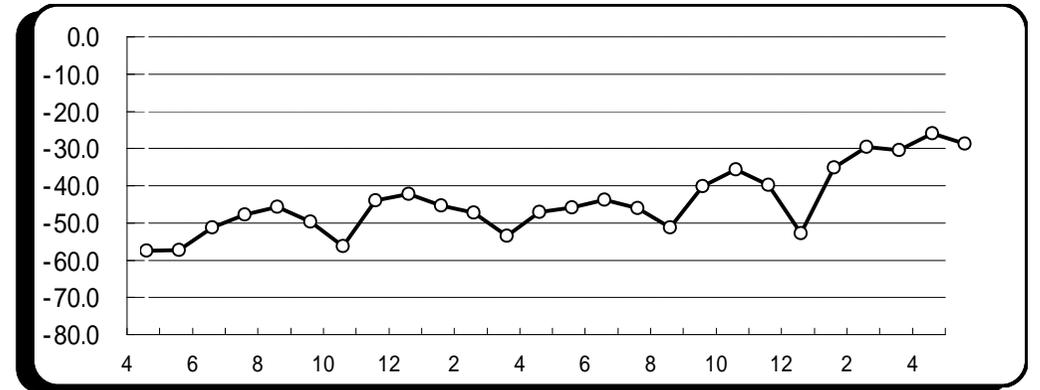
## 建設業



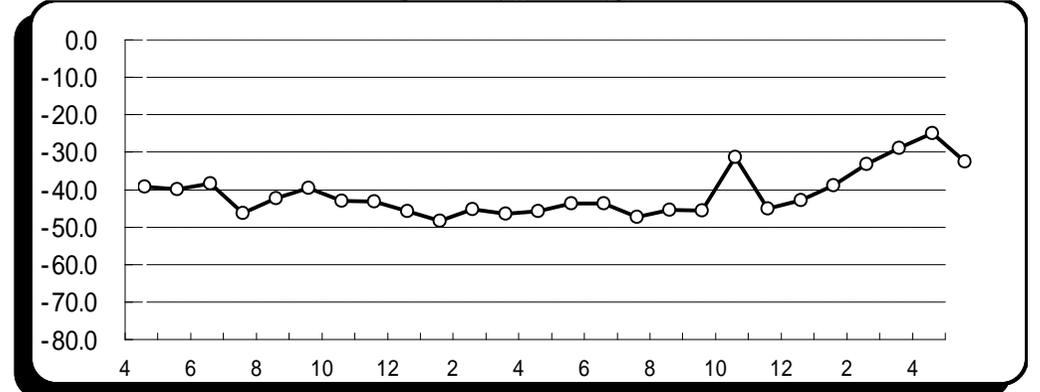
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

